

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970700645		
法人名	有限会社みんなの家どんぐり		
事業所名	グループホームどんぐり		
所在地	南巨摩郡富士川町小林1954-7		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

親しんだ家族、住み慣れた我が家を離れて暮らす方々の思いを受けとめながら、「第2の我が家」として、「ここにいてよかった」と思える生活の場づくりをしています。人生最期の時まで、普通の生活を続けられるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りを畑や果樹園に囲まれた場所に、ごく普通にある民家のような建物になっている。グループホームは1階の平屋部分にあり、無垢の床板が使われ、畳や襖があるなど、温かい家庭的な雰囲気となっている。事業所の理念である利用者の「第二の我が家」となることを目指し、利用者やその家族が主役となったケアが行われている。働く職員も、ケアの方法や事業所の運営の現状に満足することなく、色々なケアの方法や対応を考え、利用者やその家族のためにベストよりベターな対応を日々考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームどんぐり

[セル内の改行は、(Altキー) + (E

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分の家にいるような生活を維持するという理念を皆で共有し、入居前の生活スタイルを大切にしている。	以前の理念から、職員が重要だと考える部分を抽出して、コンパクトなものに変更した。そのため、職員にも、理念がより浸透している。「第二の我が家を目指し その人らしくのんびり ゆっくり 生き活き」という理念のもと、利用者・家族の意思を尊重しながら、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、お神輿が来てくださったりしている。水路清掃に協力している。また、ホームの避難訓練に地域の方も参加して下さっている。	事業所近くの利用者が入居しているため、散歩に行くと、友人・知人との会話がある。近くの保育園の行事に招待されるなど、地域との良い関係ができています。自治会にも協会員として加入しており、区長の協力で地域住民を招いた介護教室を事業所で開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 大事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、地域の人を対象に介護教室を行い、大勢の人が参加して下さった。わかりやすい話であったと好評を得た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、日々の暮らしや行事の報告のほか、行政や地域の方とご家族の情報交換・避難訓練などの話し合いを行い、実践につなげている。	家族・地域包括支援センター職員・町担当職員・区長が参加して事業所の状況や予定などを報告している。参加者からの意見が中々出ないため、今後は事故報告を行い、運営推進会議の中で対応を検討することを予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社長が代表して、市町村担当者と連絡をとり、相談をしている。介護教室は市町村担当者と地区の区長と連携して行った。感染対策や事故の対策についても指示をあおいでいる。	事業所で行った介護教室は区長と町担当者の協力により、約50名もの地域住民の参加を得ることが出来ている。利用者が風邪に集団でかかった時にも、町担当者へ報告し対応を相談するなど、連絡が密にされている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則的にしないことを職員に周知している。やむを得ず、行う場合は職員間で話し合い、家族の承諾を得ている。緊急でやむを得ない場合の要件(切迫性、非代替性、一時性)を満たしているか常に確認している。	ベッドの上で混乱し、落下の危険性のある利用者への対応を職員間で検討し、また、家族の同意を得て、4本柵をやむを得ず使用したこともあった。スピーチロックについては、職員間で注意しあったり、ヒヤリ・ハットを作成して、ミーティングで「その対応がよかったのか」、「別な対応があったのか」などを検討している。事業所玄関及びグループホーム入り口も施錠せず、グループホーム入り口ドアに鈴をつけ、職員が見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで学んでいる。事業所内へは報告書の回覧などで周知を図っている。ミーティングなどでも虐待の有無について話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学んでいる。事業所内へは報告書の回覧などで周知をはかっている。現在の入居者の方には利用が必要な方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の時には、説明を行い、不安や疑問点を話していただいている。改定は、運営推進会議などで話し合いを行い、決定している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の方の要望や意見を聞いている。防災対策に対する貴重な意見をいただき、実行している。入居者の方とは、日ごろの会話の中から、要望を聞き、取り入れるようにしている。	運営推進会議で出された家族の意見(非常災害時に周辺住民に知らせるための警報装置や避難経路への照明の設置)に対し、警報装置については、既に設置し、避難経路の照明については、現在、検討している。全ての利用者に家族の面会がよくあるため、普段の会話の中から要望を聞き、聞いた情報は連絡ノートで職員で共有している。直ぐに対応できるものについては、職員が対応し、相談が必要なものについては、管理者等に相談している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで運営に関する意見を聞いている。出席できない人は連絡ノートに意見を書いたり事前に意見を聞いたりしている。	休憩時間や夜勤の時間帯の設定など、職員から出された意見を代表者・管理者を交え検討している。意見や提案が実際に運営に反映され、職員の意欲に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場に直接赴いて、現場の様子を見たり、個々に面接を行って意見を聞いたり、研修などの記録で努力や実績の把握をしている。業務改善や研修への参加の促進、給与水準の維持に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場の様子を常に確認し、毎朝のミーティングや面接などで職員の様子を把握している。毎月1回の事業所内研修のほか、外部研修へも積極的に参加を勧めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流会やグループホーム協会に参加して情報交換や勉強会を行っている。研修に参加した人は、他事業所実習で他の事業所の見学もしている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	デイサービス利用時や自宅への訪問の機会に、本人に挨拶をして、困っていること、不安なこと、要望などを聞くようにしている。機会があれば、何回か話をして顔が見える関係を作るようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅への訪問の際に、家族の方からお話を伺い、入居の動機や困っていること、不安なこと、ホームへの要望などを確認している。できる限り、自宅にいた時と同じ生活ができるように努力することを伝えている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに、アセスメントし、今の課題やニーズを把握している。それに基づいて必要な支援を考え、福祉用具などは入居前に本人や家族の方に提案して準備をしていただいている。馴染んだデイサービスへの訪問などしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを考えて、料理の下ごしらえや茶碗洗い・茶碗ふき・洗濯物たたみ・掃除・買い物などできることは一緒にしている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問して下さった家族の方は、本人の髪をカットして下さったり、食事の介助をする方、車いすへの移動や肩や手足のマッサージをする方、一緒に散歩や外食に出かける方などいろいろな関わりをもって下さっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや行事(節分・どんど焼き・保育園の運動会・クリスマス会など)に参加できるよう支援している。面会に来てくれた方とゆっくり過ごせる場所と時間を用意し、家族にも面会があったことを伝えている。	利用者の地域の組の人や友人・知人の訪問がある。また、利用者がかつて作物を作っていた畑を散歩で見に行ったり、家族が家に連れて行ったりしている。事業所近くにあるお寺に車椅子で墓参りする利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士、話が合う人同士で過ごせるよう、席の配置をしている。一緒に作業や食事ができる場所作りをしている。話がスムーズにできるよう、職員も会話をフォローしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了は、お亡くなりになった方がほとんどだが、グリーフケアとしてお手紙と思い出のアルバムを差し上げている。形見の服の布地で熊の人形を作って差し上げたところ、とても喜んで下さった。また、新盆には会社からお花を差し上げている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくり会話できる時間を設けて、本人の思いや暮らし方の希望を聞いている。記録に残して、皆で共有できるようにしている。会話が困難な方は、表情・態度・しぐさ・動き・食事や排せつの状態などから把握している。	入居時に家族や入居前に通っていたデイサービス、ケアマネジャーから、情報を得てアセスメントをしている。利用者本人からも、普段の会話や表情・しぐさなどから読み取っているが、その利用者の訴えが本当かどうか、真の意味は何かを職員が話しあうようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴からこれまでの生活スタイルにできるだけ近い形で生活できるよう、部屋のベッドやトイレの配置など考えている。本人から暮らし方の希望を聞いて、食事の好みや生活時間、入浴の仕方など決めている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や体温・食事・排せつ表などから状態を読み取ったり、皆で情報交換をして心理状態や、できること・わかること・望んでいることなどの把握をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な話し合いは持っていないが、必要に応じて家族とケアの課題についての相談をしている。医療的な問題については、受診の際に、医師と家族・職員で今後の方針について話し合っている。本人に意向を確認することもある。	利用者ごとに担当を決め、担当が介護計画の原案を作成し、その原案をもとにカンファレンスを行い、計画をつくっている。担当者が計画作成に関わることにより、モニタリングの視点も生まれ、利用者本位の介護計画に結びついている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の記録の中で情報と判断、実践の項目を記入している。仕事の始めに各自が目を通し、その日のケアに役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出張床屋の利用をしている。寂しくて一人であることがいやな方には茶の間で休んでいただいている。食べたいものがあれば、メニューを変更して作ったり、広告を見て一緒に買いに行ったりしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔、自分が耕した畑を見に行ったり、散歩の先で出会った昔馴染みの人との会話を楽しめるよう支援している。よく行った神社へお参りしたりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診されている方、入院できる病院の医師に診察を受けている方、往診して下さる医師を選んでいて、個々の希望に応じて医療機関を選んでいただいている。それぞれの医師と連携をとっている。	家族が希望するかかりつけ医への受診が基本であるが、事業所への往診があり、緊急時に入院ができるかかりつけ医に変更する場面が多い。家族が受診につれて行く時には、看護師が同行することもある。皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科などへは、職員が受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師や併設のデイサービスの看護師と日々、情報を共有し、相談しながら支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできるだけ職員が交代で、面会に行くようにしている。看護師が中心となって、病院関係者との情報交換を行っている。通常の往診や受診時にも病院関係者と連絡を取っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホスピスケアに対する希望の確認を入居時からとっている。状態が変化した時には、家族に情報を伝え医師と家族と本人・職員で話し合いをしている。事業所でできることと、入院した場合のメリット・デメリットなどもお話しせられて、家族と本人の希望をふまえて治療方針の決定をしている。	看取りへの対応については、家族の選択を基本としている。入居時に家族の希望を確認するが、重度化し終末期を迎えるには長い期間があるため、家族の様子を観察しながら、医師を交えながら必要な情報を家族に伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づいて行動する訓練をしている。研修にも参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、訓練を行っている。うち1回は夜間に行い、地域の方や家族の方にも協力してもらい、避難訓練を行っている。	年2回(日中と夜間)の訓練をしている。夜間の訓練には、実際に家族や地域の住民が参加し、利用者役を職員が行い、避難訓練をしている。その結果、避難経路が暗いということが分かった。日中の訓練は併設のデイサービスと行っているが、地域の住民の参加はまだ、得られていない。	日中行った事業所での介護教室にはたくさんの住民の参加があるなど、事業所の地域住民の認知度は高い。現在、連携の取れている区長の協力を得ながら、日中にも災害時に住民の得られるような訓練の実施や、協力関係づくりを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言を使う言葉かけが多いが、親しみをこめて使っている。個人個人の性格に合わせて言葉かけを考えている。排泄の言葉かけはさりげなく行いたい、難聴の方が多く、つい大きな声になってしまう。	入浴時やオムツやパッドの取り扱い、排泄物の処理方法などについて、慣れから配慮を忘れてしまうことがあったが、職員からの指摘により、検討を行い、パッドをトイレの見えないところに置くなどの改善をしている。難聴の利用者が多く、会話が大声になりがちであるが、筆談をするなどの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		「～したい」という希望が出るように、食事や外出など「～だけど、どうしますか？」というように声をかけている。時間がある時には、何日か前から声をかけてゆっくり考えられるようにしている。興味や好奇心を引くようにいろいろな話題をふってみている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		重介護の方は、食べたい時に食べたいものを食べ、休みたい時に休んでもらっている。夜も話が弾んだり、テレビを見ていたりすれば、遅くまで起きている。朝も眠い時には、はっきり目覚めるまで待つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		服装や髪形は本人の希望を聞いて好きな服や髪形を選んでもらっている。髪をうまくとかせない時には好きな髪形になるように手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		食事の好みを尊重し、ご飯やパンなど好きな主食を出すようにしている。嫌いなもの、食べられない物についても考慮して別メニューで出している。できる範囲で下ごしらえや後片付けをしてもらっている。食事は介助が必要な方が多く一緒には食べられない。		朝夕食はグループホーム内のキッチンで調理をして、利用者も可能な限り、下ごしらえや皿拭きなどの後片付けをしている。昼食はデイサービスで調理したものを事業所で盛り付け、食べている。メニューはデイサービスの献立を参考に職員が考えている。必要な食材は、利用者と買い物に行くこともある。回転寿司などに、利用者の希望がある時には外食する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		食事量・水分量を毎食チェックし、過不足がないか一定の期間を通して観察している。食事の形態を義歯や咀嚼力、嚥下の状態にあわせて変えている。右手を骨折した人に対しては、おにぎり食で自分で食べられる工夫をした。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		自分で義歯磨きができる方は、その方法の確認をしている。汚れが目立つときは最後に仕上げ磨きをさせてもらっている。全介助の方は義歯がないので口腔内を清拭させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握をしている。きよきよする、落ち着かないなどの排泄のサインがあった時には、さりげなくトイレに誘導するように心がけている。失禁が少ない方はオムツがはずせるかどうか検討している。	重度化・高齢化が進んでいるため、日中、綿パンツで過ごす利用者は1名で、他の利用者はオムツを使用している。尿意を表せない利用者が多いため、職員が利用者の行動からサインを読み取り、トイレに誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足解消のために体操を取り入れている。午前中のお茶の時間は牛乳を出すようにし、食事もさつまいも・バナナ・ヨーグルトなどを積極的に出すようにしている。オムツの方もなるべくトイレで排泄できるように支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番湯が好きな方は一番に入っていたり、ぬるい湯や熱い湯などその方の希望の温度で入っている。原則的に1日おきの入浴だが、希望があれば入りたい日に入っている。	午前中が入浴時間になっていて、利用者の希望により、入浴順番を決めている。入浴を拒否する方には、無理強いをせず、日を変えたりして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れやすすぐ横になりたい方は、茶の間の布団で休んでもらっている。自分の部屋で好きな音楽を聞きながらゆっくり休む方もいる。室温や音・光の調整もして落ち着いて休めるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの中に薬の用法の紙が入っており、職員は常にその内容を確認している。薬の変更があった場合は口頭や連絡ノートで知らせるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	細かい手仕事得意な方には広告で肩たたきを作ってもらっている。買い物好きな方は職員と買い物に行き好きなものを買ったり、帰りにおいしい物を食べて帰ってきたりしている。好きな音楽をかけて一緒に歌ったりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望があれば、散歩やドライブ、買い物に出かけたりしている。地域の祭りや行事も予定を把握して、家族の方と連絡して自宅でおみこしを見たり、地区の催し物のテントでごちそうをいただいたりしている。保育園のクリスマス会では席を人数分用意していただいた。	普段は、希望があれば利用者と一緒に食材の買出しに行ったりしている。他にも家族と一緒に花見に行ったり、町民運動会に参加したりしている。事業所近くで、地区のイベントがよく開催され、参加したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がないことと、計算ができないことからホームでお小遣いを預かり、必要な時にはそこから買い物のお金など出している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機が小さく使いづらいので、本人に代わり、電話をかけて話だけ直接していただいている。手紙も字を書ける方がいないので、受け取りはするが自分で出す方はいない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光がまぶしい方は、カーテンを引くなどしている。室温は温度計などで確認している。季節の風物詩の壁紙を作ったり、クリスマスツリー、お正月飾りなどで季節感を出すようにしている。	木造の1階部分にグループホームがあり、利用者が日中過ごすリビングや隣接する和室には大きな掃き出し窓があり、明るく桃や梅などの果樹園が見渡せる。ダイニングの机は椅子型の炬燵になっていて、足元が暖かくなる工夫がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在は一人でいると寂しいからと、リビングや茶の間で過ごす方が多い。席の配置を工夫して、話が合う方同士で側に座っていただいている。作業や体操もテーブルを囲んで一緒にしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていた布団や家族の写真、テレビや好きなCDを持ってきている。部屋で休む時には常に好きな音楽を流している方もいらっしゃる。ベッドサイドの引き出しに日用品を入れてそこからいろいろ取り出せるようにしている方もいる。	1室だけ洋室となっているが、他の部屋は畳敷きの和室で、押入れが付いている。ベッドや布団・収納は、利用者が持ち込むことになっている。どの部屋も大きな掃き出し窓があり、明るい。持ち込みは自由になっているが、使いなれた家具などを持ち込む家族は少ない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間、一人でもトイレの場所がわかるように、部屋の入口の戸を少し開けて、トイレの電気は点けばなしにしてある。電気についている方に歩いてこられる。建物内部はバリアフリーで手すりがついており、車いすの方が手すりにつかまって自走している。			